

推計値の精度について

- ・「消費者意識基本調査」(2016 年度)において、標本誤差は 95%の確率で、約 0.69% (下式参照。)

$$\begin{aligned}\text{標本誤差} &= 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{回答割合} \times \{1 - (\text{回答割合})\}}{\text{(有効回答数)}}} \\ &= 1.96 \times \sqrt{\frac{0.0814 \times (1 - 0.0814)}{6009}} \\ &\approx 0.69\%\end{aligned}$$

- ・ 標本誤差を考慮すると、「消費者意識基本調査」の結果から、我が国全体 (15 歳以上) で消費者被害・トラブルの経験が「ある」者の割合は、約 7.45~8.83% と考えられる。
- ・ 本推計においては、消費者被害・トラブル経験の割合と「消費者被害・トラブル額」については、必ずしも比例していないが、仮に比例していると想定した場合、「消費者被害・トラブル額 (既支払額 (信用供与を含む。) ベース)」約 4.8 兆円は、約 4.4~5.2 兆円の幅で示されると考えられる。